

貸借対照表

(2025年3月31日 現在)

(単位:百万円)

科 目	金 額	科 目	金 額
資産の部		負債の部	
流動資産		流動負債	
現金及び預金	1,118	買掛金	730
売掛金	1,269	短期借入金	150
商品及び製品	622	未払金	160
仕掛品	4,908	仮受金	2
原材料及び貯蔵品	3	前受金	176
未収入金	232	預り金	9
その他	357	未払法人税等	5
流動資産合計	8,511	未払費用	41
固定資産		リース債務	11
有形固定資産		資産除去債務	84
建物(純額)	219	流動負債合計	1,373
機械及び装置(純額)	695	固定負債	
工具、器具及び備品(純額)	27	長期未払金	6
建設仮勘定	2	長期借入金	3,075
有形固定資産合計	943	固定負債合計	3,081
無形固定資産		負債合計	4,455
ソフトウェア	26		
無形固定資産合計	26	純資産の部	
投資その他の資産		株主資本	
投資有価証券	0	資本金	100
関係会社出資金	30	資本準備金	5,756
繰延税金資産(固定)	835	その他資本剰余金	7,740
その他	78	資本剰余金合計	13,496
投資その他の資産合計	945	利益剰余金	
固定資産合計	1,916	その他利益剰余金	3,886
		繰越利益剰余金	△ 750
		利益剰余金合計	3,135
		自己株式	△ 10,759
		株主資本合計	5,972
		純資産合計	5,972
資産合計	10,428	負債純資産合計	10,428

個別注記表

【重要な会計方針に係る事項に関する注記】

1. 資産の評価基準及び評価方法
- (1) 有価証券
- 子会社株式及び関連会社株式……………移動平均法による原価法
- 其他有価証券
- ・市場価格のない株式等……………移動平均法による原価法
- (2) 棚卸資産
- 通常の販売目的で保有する棚卸資産
- ・商品及び製品……………平均法による原価法
- ・仕掛品……………平均法による原価法
- ・原材料及び貯蔵品……………先入先出法による原価法
- 収益性の低下した棚卸資産については、帳簿価額を切下げております。
- なお、滞留により収益性の低下した製品及び仕掛品の帳簿価額の引下げの方法について、従来は受注残高を基礎とした方法を採用していましたが、当事業年度の期首より主として滞留期間を基礎とした方法へ変更しております。
- この変更は、販売の主流がカスタム製品から汎用製品へ移ってきており、実態に即した帳簿価額の引下げを行うためであります。
- この結果、期首の商品及び製品が48百万円、仕掛品が885百万円、利益剰余金が736百万円増加し、繰延税金資産が197百万円減少しております。
2. 固定資産の減価償却の方法
- (1) 有形固定資産（リース資産を除く）
- 定額法で計算しております。
- 耐用年数についてはビジネスごとに実態に応じた回収期間を反映し、次のとおり見積もっております。
- ・建物、構築物……………3年～18年
- ・機械及び装置……………2年～ 4年
- ・工具、器具及び備品……………2年～15年
- (2) 無形固定資産（リース資産を除く）
- 定額法で計算しております。
- このうち、自社利用のソフトウェアについては社内における利用可能期間(5年以内)に基づく定額法を採用しております。
3. 重要な収益及び費用の計上基準
- 製品販売に係る収益は、主に半導体メモリ製品を代理店又は直接ユーザーへ販売する取引によるものであり、顧客との販売契約により、受注した製品を引き渡す義務を負っております。当該履行義務は製品を引き渡す一時点において顧客が当該製品に対する支配を獲得して充足されると判断し、引渡時点で収益を認識しております。

【当期純損益金額】

当期純損失

△750,870,031円